

大和町吉岡宿に伝わる冬の風物詩 ～島田飴まつり～



昨年5月に全国公開された映画「殿、利息でござる！」で一躍有名になった宮城県大和町吉岡は、セツ森を仰ぐ奥州街道の宿場町。ここに昔から伝わる「島田飴」伝説がある。

これは今から400年前に当地の八幡神社神主が「恋煩い」となり、この飴を食べたところ平癒回復したという代物。高島田の鬘をかたどった伝承の飴細工で、縁結びにご利益があるといわれている。

毎年12月14日を例祭日として、多くの参拝者や地元住民により「島田飴まつり」が行われている。今年も、全国各地より約2,500名の来場者があり盛大に開催された。

このまつりの実行委員長児玉金兵衛(44才)さんは、江戸時代から12代続く老舗商店の経営主。地元商工会有志が17年前にスタートさせた「大和まるごと市」をたたき台に、12年程前から現在の「島田飴まつり」の形が出来上がり今日に到っている。

まつりの核を担う飴づくりのメンバーは約30名。今は廃業した製菓業者より譲り受けた製造用機具と商店街の空き店舗を再利用した「島田飴工房」を新たに立ち上げ、自ら飴を製造・販売し、そして地域おこしの一大イベント「島田飴まつり」を運営している。



昨年、11月上旬から12月にかけて作った島田飴を吉岡八幡神社へ奉納。このまつりのために実行委員会は年中準備に余念がない。

児玉さんは、「そもそも『まつり』は暮らしの中の楽しみとして、日本人のコミュニティにとって普遍的なもの」、「こうした取り組みを我々の世代から子供達に繋げていきたい。それが将来への可能性にもつながる！」と熱っぽく話してくれました。

小さいながらもキラリと光る「島田飴まつり」。地域活性化のシンボルとして豊かな農村地帯に抱かれた「吉岡宿」の冬の風物詩として定着している。